

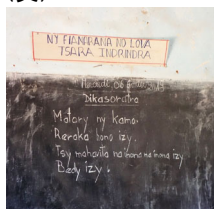


自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

小学校の補習授業

アンズブルベの小学校では補習授業が導入されています。小さい頃からアルファベットは筆記体で習うマダガスカル。ブロック体を読むのも書くのも苦手な子が大半います。そこで読み書きの補習授業を先生や地域住民が実施しています。（無給です…!）先生もブロック体は苦手なのか写真の黒板の字は何かかククカク。ちなみに写真の例文は「怠け者は寝ていて疲れていて何も終わらせていない」という意味です（笑）



畑の記録取りで現状把握

～耕す、種をまく、経過観察、そして収穫～

農業の生産性向上に向けた取り組みの一環として、畑の栽培記録を付けることに何度か挑戦しています。JICAの米のプロジェクトでも日付、作業内容を農家さんが記録しています。同じことを野菜でも取り組んでみましたが、現状把握のための記録取りには苦勞が絶えませんでした。農家さんの条件：町から比較的近い畑で野菜を栽培している人（通いやすい場所でない、なかなか経過観察できません!）

①記録取り1か所目：マダムV、とうもろこし畑

畑の広さを把握してない場合が多いので、その場で歩いて、歩数で概算の広さを測ります。種まきから同行し、私も一緒に手伝いながらどんな方法か確認（1つの穴に種2つ等）。その後、いつ、肥料何kg、農薬何Lを撒いたのかを質問して記録。購入品の場合は値段も記録。こういった内容も記録がないので農家さんの記憶が頼りです。そして質問の気を抜くと、「ずいぶん前」「たくさん」「ちょっと」と曖昧な表現で終わってしまうので、具体的な数値が出てくるまで粘ります。作業がある時には同行するようにしていましたが、気付いたら収穫が終わり、収量も計らなかつたようで、結果を知ることができませんでした。



②気を取り直して記録取り2か所目：再びマダムV、ツアラマス（豆）畑



こちらの畑はこぢんまりしていて、全体を見渡しやすく、素人が記録を取るには良さそうな環境。1か所目と同じように種まきから同行し、インタビュー。今回は収穫を逃さないぞと思い、「2週間後に一緒に収穫しよう」と約束。しかし、収穫直前に泥棒に全て盗まれてしまい、収穫はゼロ。何とも言えず無念です。

③対象農家さんを変えて3か所目：マダムM、ツアラマス（豆）畑



こりずに記録取りのためのインタビュー。今回は農家さん自身のノートにも書いてもらうことに。

（1冊のノートを家族で共有している場合もあるので、モノがないことも。）化学肥料を投入した畑と、投入しない畑の2か所で栽培。収穫には立ち会えませんでした。しかし、せつかく条件の違う畑で栽培しましたが、最終的には全て一緒に計量。どちらの畑からどれだけ収穫できたかはわかりませんでした。けれども、農家さんの記憶によると、前年度は種3.5kg→収穫量10kgだったのに対し、今年は種8kg→収穫量40kgだったので、前シーズンより収量アップ。今シーズンの記録を頼りに、来シーズンも収量アップを目指してほしいと思います。